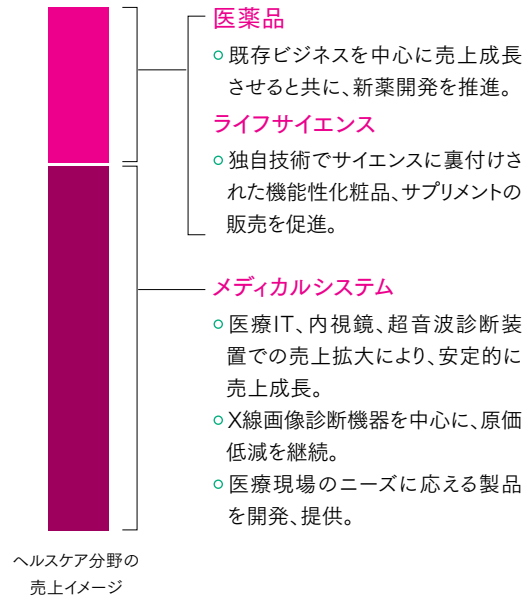


ヘルスケア



メディカルシステムの着実な成長とともに 将来の柱として医薬品ビジネスを推進

ヘルスケア領域では、長年培った医療現場での経験を強みに、メディカルシステムの画像診断領域で事業を拡大、安定して成長しています。そして今後のさらなる成長を目指し、医薬品分野に注力しています。

医薬品分野では、各事業会社による既存事業で売上を拡大させると同時に、特長ある新薬の開発に研究開発費を効率的に投入し、新薬による収益貢献の早期化を図っています。

がんなどの未だ有効な治療方法が無い疾患領域に重点的に取り組み、当社グループならではのオンリーワンの医薬品を開発し、社会課題の解決を目指します。

独自の技術で展開する 富士フィルムの医薬品開発

富士フィルムの医薬品事業の特長は、化学物質の合成技術など技術の幅があることです。国内でもトップクラスの人材が在籍し、その技術力に惹かれて他の医薬品メーカーから合成検討を依頼されるほどです。また写真事業で培ったマイクロのメカニズム解析など、解析技術のレベルが高いことも特長です。

富士フィルムは、未だ有効な治療方法が無いアンメットメディカルニーズを満たす新薬の開発を目指しており、特にがん領域に注力しています。強みである解析技術により、新薬の新たな作用メカニズムを明らかにすることで、画期的な治療薬の登場を待望する患者さんにお届けできるよう、“オンリーワン”“ナンバーワン”の医薬品開発に取り組んでいます。



富士フィルム(株)
取締役・常務執行役員
医薬品事業部長

石川 隆利

新薬による収益貢献の早期化を目指して

外部との連携を強化し医薬品開発を加速

当社グループは写真フィルムで培った解析技術や合成技術など独自の強みを生かし、ポテンシャルの高い新薬候補を見極めることで、新薬開発を効率的に進めています。さらに経験を有する医療機関などとの共同の臨床試験により、開発期間の短縮化及び開発コストの負担軽減を図っています。

現在は、がん領域で世界トップレベルの研究・治療施設と抗がん剤の臨床開発の推進、全米最大のアルツハイマー型認知症の研究機関と同治療薬の臨床試験実施など、グローバルで連携を進めています。

パイプライン

FF-10501, FF-10502,
FF-21101 (抗がん剤)

外部機関との提携内容

MDアンダーソンがんセンター(米国)と
臨床開発推進中

T-817MA
(アルツハイマー型
認知症治療薬)

Alzheimer's Disease Cooperative Study
(米国)と第II相試験を実施中

京都大学iPS細胞研究所との共同研究により
バイオマーカーの探索・特定を目指す

T-705
(抗インフルエンザウイルス薬)

米国・国防省の助成金により第III相試験を
実施中

* 2014年6月現在